

報 ち か ら
静岡市相撲連盟
会長 川上明廣
平成 27 年 3 月
3 3 2 号

静岡相撲部 O B ちから会
昭和 30 年 4 月 創立
昭和 39 年 11 月 初刊
会 長 細倉涼太
事務局 大江弘文

☆ 山梨県石和温泉一泊二日のバス旅行が 2 月 8 日 9 日の行程で参加者 22 名で行われました。朝 8 時半に南口出発、身延あたりから雪が舞散り、雪を見た事の無い我々、バスの中大騒ぎ、サントリー工場は大雪のため見学を断られたり、でも石和市内に入ると雪は無くてチーズ工場、ワイン工場など巡り、4 時にホテル入り。温泉に入り、6 時からの夕食を控え、部屋で軽く一杯。宴食の料理も最高で女性群全員から褒められ、小林君ご苦労様でした。(小林君の顔がきいた?)

翌朝ホテル 10 時出発、河口湖経由で途中休み、休みで一路静岡へ向かう。

☆ 平成 26 年度 スポーツ指導者資質向上講習会
静岡市は一市民、一スポーツを奨励しています。その為には、優秀な指導者を育てる目的で 2 月 13 日(金)午後 7 時から体協に於いて、右記を開催しました。

出席者 河野晋作・小林直樹

☆ 平成 26 年度静岡市体育協会優秀指導者章授章
2 月 20 日午後 6 時半よりセンチュリーホテルで行われた今回の受賞者は、市相撲連盟・ちから会の会計の責任者森本浩史さんが授章されました。静岡相撲部在学中は全国高等学校新人相撲大会・全国高等学校金沢大会・インターハイなどに団体戦、個人戦に出場し、また、県内の大会に於いて、数々の好成績を挙げてきた事が評価され、今回の授章となった。

授章式出席者 吉永・川上・大江・中村・戸田
中島・村松・中村武・村越

☆ 静岡県相撲連盟 2 月理事会が 2 月 21 日(土)の午前 11 時よりクーパーホール会館において開催された。この日、平成 26 年度県下の横綱・優秀選手・などの報告平成 27 年度年間行事予定などの協議が行われた。引き続き、12 時より横綱表彰以下の表彰が行われたが静岡市相撲連盟からは一人の選手も選ばれなかった。来年は多くの選手に奮起してもらい、実績を残していきたいと思っています。

出席者 伊東稔浩・川上明広・大江弘文・中村修二
(敬称略)

静岡商溪声俳句会

残雪や上九一色の修羅の跡 岩崎 安次
托鉢の足並み揃う小春かな 高橋 璋
先行くは知人に似し背春小径 加賀美 幸
朝市の元気なる声息白し 原川 芳朗
うぐいすや声につられて上着脱ぐ 佐藤 康紀
宅配のひと小走りに春の雨 永田 峰雄
神棚の下は父の座掘炬燵 牧田 秀峰

ちから会会報もネットで静岡と検索すれば、毎月の会報が見れます。これも岩崎さん同級生の林秀男さんのご尽力に感謝申し上げます。

3 月号より、関西支部富坂さんのご協力をいただき「静岡同窓会関西支部だより」を掲載していきます。

「静岡同窓会関西支部だより」 第一回

大阪・関西支部は創立以来 80 年間も

支部活動の灯は消えていない。

60 年続いてきた大阪支部の呼び方を、関西支部に変えてから、昨年は 20 年の節目を迎えました。記念計画のうちのひとつとして記念誌の発行を現在準備中で、その為に大阪支部の歴史をたどってみると、支部創立以来一度も灯が消えることなく、今日まで続いていることが分かりました。

同窓会の創立は母校が昭和 10 年に、城内から現在の田町に移転したその年で、それから 3 年後の昭和 13 年に、第一回目の同窓会名簿が作成されている。これに支部として載っているのは京浜・大阪・神戸・清水・浜松の 5 支部。その次の名簿発行は終戦後の昭和 32 年であって、その後、昭和 42 年、52 年の発行では県外の支部は大阪支部だけが残っている。

この様に、同窓会設立当初から続いている支部は他では清水支部だけである。

大阪支部は、関西支部の 20 年を加えると、創立以来 80 年間も長く続いてきたことになる。そこにはいくつかの側面が思い起こされます。

関西は戦前そして、終戦後から今日までわが国を代表する商工業の大都市であって、数多くの先輩諸氏が青雲の志高く活躍されていたこと、また、関西特有の人間味豊かな風土の中で同窓の強い絆が築かれ易いこと、もうひとつ忘れてならないのは、野球部の甲子園出場です。近年とは違って昔は、選手や応援団の受け入れには大阪支部を挙げて協力されてきた。この事は私自身昭和 29 年夏の甲子園応援の際、球場の直ぐ近くに住むある先輩の自宅を、応援団の宿舎に借りていた記憶がある。

世の中も母校も昔とはずいぶん変わってしまった、最近では関西に就職、就学する後輩が極端に減ってしまった。これまで続いてきた支部をこれから何年つづけるか気になることです。

「春の甲子園 静岡を友情応援予定」

静岡同窓会関西支部とは交友を深めているので、夏も甲子園へ応援に行き、この春も応援に行く予定をしています。母校の応援が出来ない事が残念ですが、富坂誠二(第 56 回卒)